

【参考1】15大都市の年齢3区分比較

1 年齢3区分別人口割合

神戸市は大都市平均より老年人口割合が高い

表35 15大都市 年少人口割合

都 市	平成12年 a (%)	17年 b (%)	増減 b-a	順位		
				12年	17年	増減
神戸市	13.8	13.1	0.8	10	11	11
札幌市	13.6	12.4	1.2	12	12	15
仙台市	14.6	13.7	0.9	3	4	14
さいたま市	15.0	14.5	0.5	2	2	4
千葉市	14.0	13.8	0.1	7	3	1
東京都区部	11.1	10.6	0.5	15	15	3
川崎市	13.7	13.1	0.5	11	10	5
横浜市	13.9	13.5	0.4	9	5	2
静岡市	14.2	13.4	0.8	5	7	12
名古屋市	14.0	13.2	0.7	6	9	10
京都市	12.7	12.0	0.7	13	13	8
大阪市	12.6	12.0	0.6	14	14	7
広島市	15.3	14.7	0.7	1	1	9
北九州市	13.9	13.3	0.6	8	8	6
福岡市	14.2	13.4	0.8	4	6	13
大都市平均	13.8	13.1	0.7			
全 国	14.6	13.7	0.9			

(1)年少人口割合

神戸市の年少人口(0~14歳の人口)割合は13.1%で、大都市平均とほぼ同じである。全国値の13.7%よりは低くなっている。

大都市で最も年少人口割合が高いのは広島市の14.7%で、最も低いのは東京都区部の10.6%である。

年少人口割合は、前回調査(平成12年)に比べ、全ての都市で減少している。最も減少幅が大きいのは札幌市で、1.2ポイントの減である。

(2)生産年齢人口割合

神戸市の生産年齢人口(15~64歳の人口)割合は66.6%で、大都市平均の68.3%よりは低いが、全国値65.8%より高い値となっている。

最も生産年齢人口割合が高いのは川崎市の72.2%で、最も低いのは北九州市の64.4%である。

生産年齢人口割合も、前回調査に比べ全ての都市で減少している。最も減少幅が大きいのは千葉市で、3.8ポイントの減である。

表36 15大都市 年齢(3区分)別人口

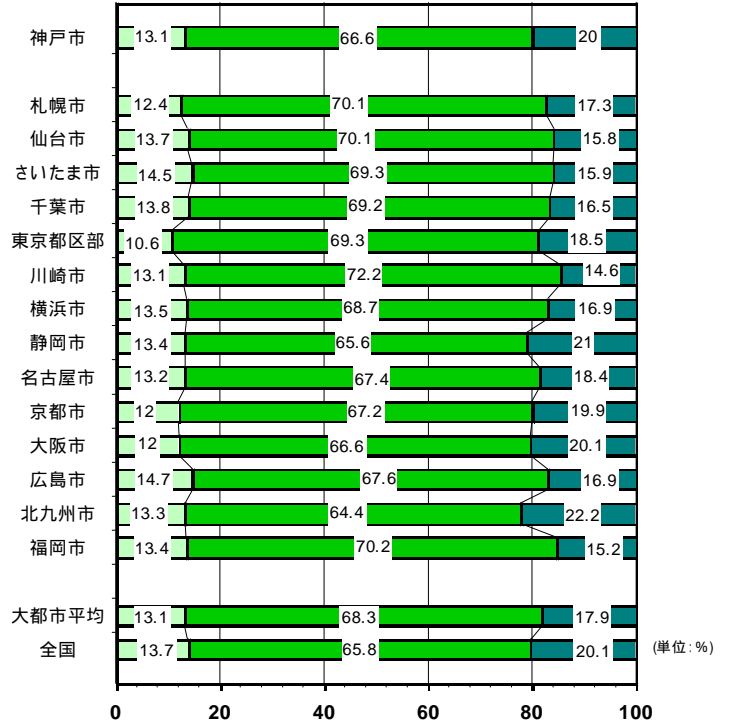
都 市	a)平成12年人口					平成17年人口				
	総 数	0~14歳	15~64歳	65歳以上	75歳以上	総 数	0~14歳	15~64歳	65歳以上	75歳以上
神戸市	1,493,398	206,703	1,033,013	252,427	96,727	1,525,393	199,608	1,015,642	305,301	132,153
札幌市	1,822,368	248,405	1,286,323	262,751	101,415	1,880,863	234,086	1,318,478	325,401	142,224
仙台市	1,008,130	146,825	727,783	133,020	51,174	1,025,098	140,051	718,314	161,795	70,522
さいたま市	1,133,300	169,929	816,522	145,087	54,374	1,176,314	170,239	815,659	186,779	74,018
千葉市	887,164	123,766	647,283	111,959	40,024	924,319	127,608	639,711	152,231	55,340
東京都区部	8,134,688	900,208	5,855,771	1,336,289	531,733	8,489,653	901,087	5,882,251	1,568,617	677,841
川崎市	1,249,905	170,670	923,655	154,704	56,705	1,327,011	174,264	957,712	194,176	78,412
横浜市	3,426,651	474,656	2,463,151	477,053	174,838	3,579,628	481,960	2,459,648	603,839	243,753
静岡市	706,513	100,352	481,541	124,379	49,792	700,886	93,849	459,464	147,262	65,272
名古屋市	2,171,557	303,272	1,506,882	338,795	129,569	2,215,062	293,405	1,492,010	408,558	171,558
京都市	1,474,471	186,860	1,019,193	254,999	108,970	1,474,811	177,315	990,446	292,927	132,882
大阪市	2,598,774	327,851	1,822,803	444,740	169,276	2,628,811	315,143	1,749,851	529,692	218,977
広島市	1,134,134	174,039	796,399	162,222	67,045	1,154,391	169,133	780,767	194,598	87,193
北九州市	1,011,471	140,202	675,675	194,250	78,472	993,525	131,893	639,776	220,985	99,872
福岡市	1,341,470	191,092	967,799	177,771	71,257	1,401,279	187,960	983,585	213,380	93,453
全 国	126,925,843	18,472,499	86,219,631	22,005,152	8,998,637	127,767,994	17,521,234	84,092,414	25,672,005	11,601,898

a) 平成12年の人口は、各都市の平成17年10月1日現在の市域に組み替えたものである。
 (さいたま市)浦和市・大宮市・与野市・岩槻市の合計 (静岡市)静岡市・清水市の合計
 (京都市)京都市・京北町の合計 (広島市)広島市・湯来町の合計

表37 15大都市 生産年齢人口割合

都市	平成12年 a (%)	17年 b (%)	増減 b-a	順位		
				12年	17年	増減
神戸市	69.2	66.6	2.6	12	12	9
札幌市	70.6	70.1	0.5	8	3	1
仙台市	72.2	70.1	2.1	3	4	6
さいたま市	72.0	69.3	2.7	5	5	12
千葉市	73.0	69.2	3.8	2	7	15
東京都区部	72.0	69.3	2.7	6	6	11
川崎市	73.9	72.2	1.7	1	1	2
横浜市	71.9	68.7	3.2	7	8	13
静岡市	68.2	65.6	2.6	14	14	10
名古屋市	69.4	67.4	2.0	11	10	5
京都市	69.1	67.2	2.0	13	11	4
大阪市	70.1	66.6	3.6	10	13	14
広島市	70.2	67.6	2.6	9	9	8
北九州市	66.8	64.4	2.4	15	15	7
福岡市	72.1	70.2	2.0	4	2	3
大都市平均	70.7	68.3	2.4			
全国	67.9	65.8	2.1			

図35 15大都市 年齢(3区分)別割合



(3) 老年人口割合

神戸市の老年人口(65歳以上の人口)割合は20.0%で、大都市平均の17.9%と比べ、2.1ポイント高い。全国値の20.1%よりは低いものの、大都市で4番目に高い値となっている。

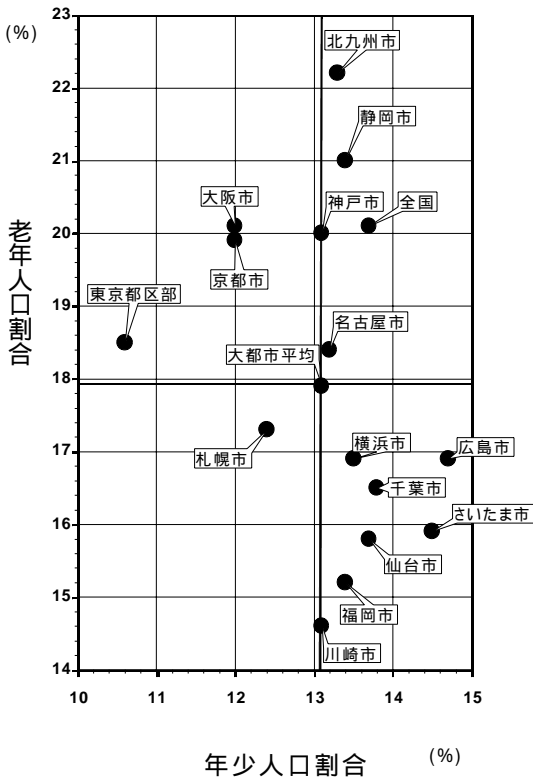
最も老年人口割合が高いのは北九州市で22.2%、逆に最も低いのは川崎市の14.6%である。

全ての都市で前回調査に比べ上昇しており、最も伸びたのは、千葉市の3.8ポイント増である。

表38 15大都市 老年人口割合

都市	平成12年 a (%)	17年 b (%)	増減 b-a	順位		
				12年	17年	増減
神戸市	16.9	20.0	3.1	5	4	3
札幌市	14.4	17.3	2.9	8	8	8
仙台市	13.2	15.8	2.6	12	13	10
さいたま市	12.8	15.9	3.1	13	12	4
千葉市	12.6	16.5	3.8	14	11	1
東京都区部	16.4	18.5	2.0	6	6	14
川崎市	12.4	14.6	2.3	15	15	13
横浜市	13.9	16.9	2.9	10	9	7
静岡市	17.6	21.0	3.4	2	2	2
名古屋市	15.6	18.4	2.8	7	7	9
京都市	17.3	19.9	2.6	3	5	11
大阪市	17.1	20.1	3.0	4	3	6
広島市	14.3	16.9	2.6	9	10	12
北九州市	19.2	22.2	3.0	1	1	5
福岡市	13.3	15.2	2.0	11	14	15
大都市平均	15.1	17.9	2.8			
全国	17.3	20.1	2.8			

図36 年少人口割合と老年人口割合



平成12年調査と比較して、いずれの都市も年少人口及び生産年齢の割合が低下し、老年人口割合の増加という結果であり、さらに少子高齢化が進行していることが分かる。

また、大都市の中で、神戸市は老年人口割合が高く、その分生産年齢人口割合が低いという特徴を持っている。

2 年齢構成指数

神戸市はすべての指数で大都市平均を上回る

人口年齢構造を示す指標として、従属人口指数（年少人口指数，老年人口指数），老年化指数が用いられている。

表39 15大都市 従属人口指数

都 市	平成12年 a	17年 b	増減 b-a	順位		
				12年	17年	増減
神戸市	44.4	49.7	5.3	3	3	6
札幌市	39.7	42.4	2.7	8	11	14
仙台市	38.5	42.0	3.6	11	12	12
さいたま市	38.6	43.8	5.2	10	9	7
千葉市	36.4	43.7	7.3	14	10	1
東京都区部	38.2	42.0	3.8	12	13	11
川崎市	35.2	38.5	3.2	15	15	13
横浜市	38.6	44.1	5.5	9	8	5
静岡市	46.7	52.5	5.8	2	2	3
名古屋市	42.6	47.0	4.4	5	6	8
京都市	43.4	47.5	4.1	4	5	10
大阪市	42.4	48.3	5.9	6	4	2
広島市	42.2	46.6	4.4	7	7	9
北九州市	49.5	55.2	5.7	1	1	4
福岡市	38.1	40.8	2.7	13	14	15
大都市平均	41.0	45.6	4.6			
全 国	46.9	51.4	4.4			

(1) 従属人口指数

生産年齢人口に対する，年少人口と老年人口の相対的な大きさであり，生産年齢人口の扶養負担度を示す。神戸市の 49.7 は，全国値 51.4 よりは低いものの，大都市平均 45.6 より高い値である。

最も従属人口指数が高いのは北九州市の 55.2 で，最も低いのは川崎市の 38.5 である。

すべての都市で上昇しており，最も前回調査から伸びたのは，千葉市の 7.3 ポイント増である。

従属人口指数は，それぞれの性質の違いから，年少人口指数と老年人口指数に分けて使用されることが多い。

$$\text{従属人口指数} = \frac{(0\sim14\text{歳人口})+(65\text{歳以上人口})}{15\sim64\text{歳人口}} \times 100$$

(2) 年少人口指数

生産年齢人口 100 人に対する年少人口の数である。

神戸市は 19.7 で，全国値 20.8 は下回るものの，大都市平均 19.2 を上回っている。

最も年少人口指数が高いのは，広島市の 21.7 であり，最も低いのは東京都区部の 15.3 である。

最も前回調査から伸びたのは，千葉市で，0.8 ポイントの増であった。（千葉市をはじめ，年少人口割合は減少しているのに年少人口指数が伸びている都市は，生産年齢人口が大きく減少している都市である。）

逆に最も減少したのは札幌市で，1.6 ポイントの減であった。

$$\text{年少人口指数} = \frac{0\sim14\text{歳人口}}{15\sim64\text{歳人口}} \times 100$$

表40 15大都市 年少人口指数

都 市	平成12年 a	17年 b	増減 b-a	順位		
				12年	17年	増減
神戸市	20.0	19.7	0.4	7	7	9
札幌市	19.3	17.8	1.6	9	14	15
仙台市	20.2	19.5	0.7	5	9	14
さいたま市	20.8	20.9	0.1	3	2	3
千葉市	19.1	19.9	0.8	11	5	1
東京都区部	15.4	15.3	0.1	15	15	5
川崎市	18.5	18.2	0.3	12	11	8
横浜市	19.3	19.6	0.3	10	8	2
静岡市	20.8	20.4	0.4	2	4	10
名古屋市	20.1	19.7	0.5	6	6	12
京都市	18.3	17.9	0.4	13	13	11
大阪市	18.0	18.0	0.0	14	12	4
広島市	21.9	21.7	0.2	1	1	7
北九州市	20.7	20.6	0.1	4	3	6
福岡市	19.7	19.1	0.6	8	10	13
大都市平均	19.5	19.2	0.3			
全 国	21.4	20.8	0.6			

表41 15大都市 老年人口指数

都 市	平成12年 a	17年 b	増減 b-a	順位		
				12年	17年	増減
神戸市	24.4	30.1	5.6	4	4	5
札幌市	20.4	24.7	4.3	8	9	11
仙台市	18.3	22.5	4.2	12	13	12
さいたま市	17.8	22.9	5.1	13	12	7
千葉市	17.3	23.8	6.5	14	11	1
東京都区部	22.8	26.7	3.8	6	7	13
川崎市	16.7	20.3	3.5	15	15	14
横浜市	19.4	24.5	5.2	10	10	6
静岡市	25.8	32.1	6.2	2	2	2
名古屋市	22.5	27.4	4.9	7	6	8
京都市	25.0	29.6	4.6	3	5	9
大阪市	24.4	30.3	5.9	5	3	3
広島市	20.4	24.9	4.6	9	8	10
北九州市	28.7	34.5	5.8	1	1	4
福岡市	18.4	21.7	3.3	11	14	15
大都市平均	21.5	26.4	4.9			
全 国	25.5	30.5	5.0			

(3) 老年人口指数

生産年齢人口 100 人に対する老年人口の数である。神戸市は 30.1 で、全国値 30.5 よりは下であるが、大都市平均 26.4 を上回っている。

最も老年人口指数が高いのは、北九州市の 34.5 で、最も低いのは川崎市の 20.3 である。

すべての都市で上昇しており、最も前回調査から伸びたのは、千葉市の 6.5 ポイント増である。

$$\text{老年人口指数} = \frac{\text{65歳以上人口}}{\text{15~64歳人口}} \times 100$$

表42 15大都市 老年化指数

都 市	平成12年 a	17年 b	増減 b-a	順位		
				12年	17年	増減
神戸市	122.1	153.0	30.8	6	6	4
札幌市	105.8	139.0	33.2	8	8	1
仙台市	90.6	115.5	24.9	13	11	10
さいたま市	85.4	109.7	24.3	15	15	12
千葉市	90.5	119.3	28.8	14	10	6
東京都区部	148.4	174.1	25.6	1	1	9
川崎市	90.6	111.4	20.8	12	14	14
横浜市	100.5	125.3	24.8	9	9	11
静岡市	123.9	156.9	33.0	5	5	2
名古屋市	111.7	139.2	27.5	7	7	8
京都市	136.5	165.2	28.7	3	4	7
大阪市	135.7	168.1	32.4	4	2	3
広島市	93.2	115.1	21.8	10	12	13
北九州市	138.6	167.5	29.0	2	3	5
福岡市	93.0	113.5	20.5	11	13	15
大都市平均	111.1	138.2	27.1			
全 国	119.1	146.5	27.4			

(4) 老年化指数

年少人口 100 人に対する老年人口の数で、人口高齢化の進捗状況を示す。生産年齢の影響を受けないため人口高齢化の程度を示すのに適している。

神戸市の 153.0 は、全国値 146.5、大都市平均 138.2 とともに上回っている。神戸市は前回調査で初めて 100 を超えたが、今回の調査では、全ての都市が 100 を上回っており、高齢化の進行が顕著に現れている。

最も老年化指数が高いのは、東京都区部の 174.1 である。主に年少人口が少ないことによる。最も低いのは、さいたま市の 109.7 である。

すべての都市で上昇しており、最も伸びたのは札幌市の 33.2 ポイントである。

$$\text{老年化指数} = \frac{\text{65歳以上人口}}{\text{0~14歳人口}} \times 100$$

神戸市は全ての指数において、大都市平均を上回っている。このうち老年化指数を除く指数が高いのは、生産年齢人口割合が低いことによるものである。

今後も高齢化が進んでいく中で、年齢3区分割合、各年齢構成指数の動きに注意を払う必要がある。